

～みんな同じ空の下～

# 第2次福祉21ビーナスプラン

(第2次茅野市地域福祉計画)

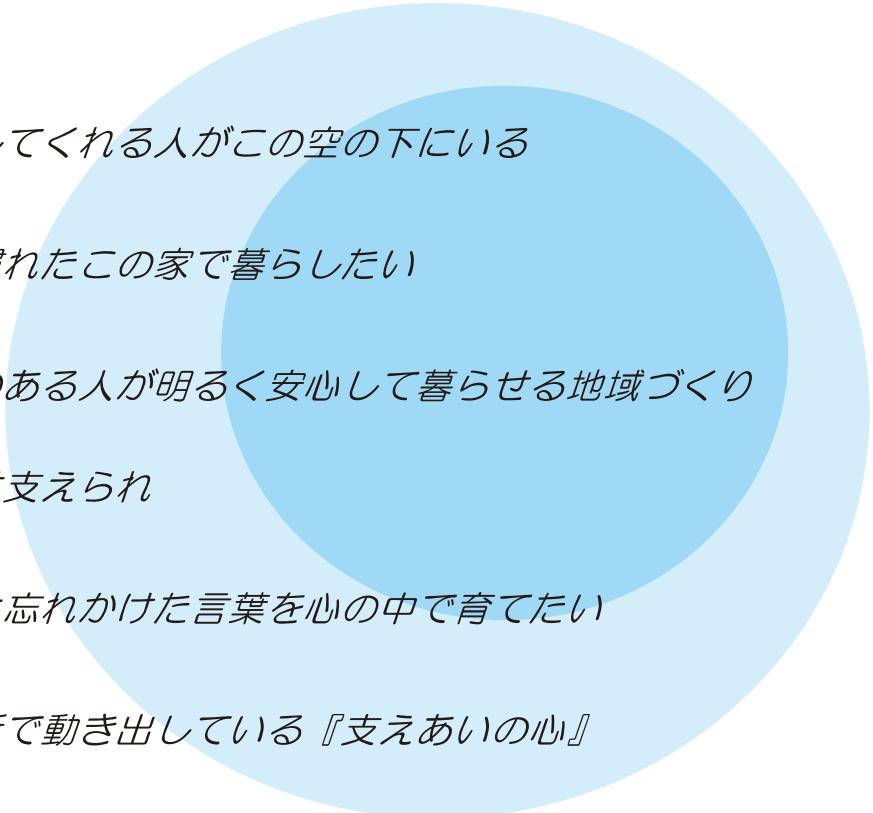
2010-2017



～お互いに支えあい、その人らしく暮らせるまちづくり～

茅野市





私のことを気にしてくれる人がこの空の下にいる

いつまでも住み慣れたこの家で暮らしたい

お年寄りや障害のある人が明るく安心して暮らせる地域づくり

支える心が時には支えられ

「お互いさま」と忘れかけた言葉を心の中で育てたい

茅野市のいたる所で動き出している『支えあいの心』

みんな 同じ空の下で生きている・・・



## 茅野市の挑戦 ～より身近な地域へ～

茅野市長 柳 平 千 代 一

茅野市が地域福祉元年と位置付けた西暦2000年から、これまでの間、茅野市の挑戦ともいえる地域福祉に関する取り組みは、全国から注目されてきました。

福祉21ビーナスプラン(茅野市地域福祉計画)は、ここで10年の節目を迎えますが、この間、茅野市は「地域包括支援システムの定着」を基本とした総合的な地域福祉の推進を図ってまいりました。特に重要と位置付けてきた、地域コミュニティを基盤とした地域福祉については、96の行政区・自治会での福祉推進委員の設置、地区ごとの「地域福祉行動計画」の策定などが進み、より身近なところでの支えあいのしくみが動き始めています。

こうした取り組みを大切に継承し、さらに「福祉でまちづくり」を進めるために、福祉21茅野と行政と社会福祉協議会が一体となり、第2次福祉21ビーナスプランを策定いたしました。

第2次計画では、福祉21ビーナスプランの基本理念やシステムを継承しつつ、現在の社会情勢を踏まえ、新たな課題に対応するための施策やシステムについての検討を重ね、「より身近な地域での地域福祉の展開と推進」を大きな柱に定めました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、私たちが未だ経験したことがない未曾有の被害をもたらし、その影響は全国に及んでいます。自然災害の前に私たちの存在がいかに小さなものであるかを見せつけられ、悲痛な思いを隠しきれません。そんな中、被災された大勢の方々がお互いに助け合い支えあう姿(自助)やそれを支援する周囲の人々の取り組み(共助)から、人と人とのつながりがいかに大切であるかを教えられ、行政が果たすべき使命(公助)の重さを再認識させていただきました。同時に、第2次福祉21ビーナスプランで示している「自助・共助・公助」を高めていくことこそが、大きな困難にも立ち向かえる茅野市の「力」になるとの思いを改めて強く抱きました。

茅野市はこれからもさらに挑戦を続け、市民総参加による「みんなでつくるみんなの茅野市」を合言葉に「福祉でまちづくり」に取り組んでまいります。この計画の実現に向けて、市民みなさんのご協力をお願ひいたします。



## 魅せよう「おらほー」の地域力

茅野市の21世紀の福祉を創る会  
代表幹事 小口晋平

ここに第2次福祉21ビーナスプランができあがりました。多くの関係者の思いが凝縮しています。できあがると同時に、私たちは未曾有の災害に見舞われた方々が、「さあ、立ち上がりよう」としている地域力を目の当たりにし、茅野市にもこんな力がほしい、と思いました。

第2次計画の大きなねらいの一つは、市民がそれぞれ住んでいる地域で、大きな災害ばかりではなく、目の前の小さな出来事でも手を差しのべ、差しのべられる住民同士の関係を構築する事です。その手段の一つとして10地区の皆様において、「地域福祉行動計画」を策定していただきました。これは正にそれぞれの地域において自分たちの地域力を再確認し、さらに強く、さらに高めるためのきっかけです。広い茅野市の、それぞれの地域にあった実情で、その地域の人々が「おらほー」のやり方で解決するというのが願いです。

地域のことはそこに住む我々の手で、3歩も4歩も進んだ地方（＝地域）自治、我が愛する自分の郷土、数千年間も打ちつづけていた我々の鼓動、こんな思いを胸に秘めながら、福祉21茅野は地域のため汗をかきたい、血を流したい「地域福祉行動計画」を基礎とした活動を展開したい、みんなが手を取り合ってこれからの中野市を歩みたいと願っています。



## 「福祉21ビーナスプラン」を 育てていくということ

日本地域福祉研究所／日本福祉大学

原 田 正 樹

第二次福祉21ビーナスプラン（地域福祉計画）が策定されました。計画の内容については本文を見て頂くことにして、今回の策定にあたって5つの特徴（変化）があったように思います。

第1は「6、7層」といった議論が生まれてきたこと。第一次計画の前期は3層のサービスセンターを軸に展開してきました。後期計画では「4層、5層へ」が目標になりました。そこで第二次計画では4層、もしくは5層で「地域福祉行動計画」を策定することになりました。結果として、より身近な地域の支えあいが意識されるようになってきました。

第2は策定メンバーの「世代交代」が図られたこと。いつでも同じ顔ぶれだけで計画を策定するのではなく、組織として新陳代謝を図ること。またネットワークを広げていくこと。常に新しいメンバーが計画策定に関わり、その後の推進にまで関わっていくことが理想です。今回「福祉21茅野」は、見事にそのことをやり遂げました。

第3は行政と社会福祉協議会が一体となって「地域福祉計画」を策定したこと。第一次計画のときには行政計画とは別に社協は「地域福祉活動計画」を策定しましたが、今回は一体的に議論をして、協働ですすめる計画になりました。

第4は福祉21ビーナスプランに先立って策定された「市民プラン」を意識して、この総合計画との整合性をしっかり図りながら策定されたことです。それによって総合計画—地域福祉計画一分野別計画という福祉関連の諸計画の体系性が明確になりました。

最後にあげておきたいことは、第一次計画を継承して今回も「部会」を中心に熱心な議論を重ねたことです。パートナーシップのまちづくりという理念を、具現化するひとつがこの計画策定や推進する機会です。手間暇を惜しまない茅野市のスピリットは今回も健在していました。

こうしてみると地域福祉計画を策定するというのは、第一次計画から延々と積み重ねられたプロセスがいかに大切だったかを痛感します。まさに茅野市のビーナスプランは生き物だと思います。皆さんのが力を合わせて地域福祉を推進していくことで、この計画も輝いていくのだと思います。この第二次福祉21ビーナスプランを大切に育てていくことが、これから私たちの役割です。地域福祉計画は「管理」するものではなく、協働して「育む」ものだということを茅野市の取り組みは教えてくれました。